

私たちの考える「個性を生かす授業」とは かくも明確である

副会長 加藤幸次

新しい学習指導要領が発布された。ここでは、「個性を生かす教育の充実」という言葉が用いられ、「個性尊重」の路線が強く打ち出されている。そこで、この際、私たちの立場と授業のあり方をはっきりさせておきたい。

まず、「個性を生かす」という表現をめぐって考えておくと、「生かす」という表現では、何かに対する手段になってしまうように思う。手段としての個性は、個性という言葉よりは「適性」という言葉の方が適切である。とはいえ、私たちは手段としての個性、すなわち、適性を考えてこなかったわけではない。私たちはこのことを「指導の個別化」という概念で考えてきた。教科として算数、数学、英語、国語の一部である「用具系教科」の授業にこの概念をあててきた。

それに対して、「個性を育てる」という表現が考えられる。明らかに、この表現では個性を育てることが目的そのものである。私たちはこのことを「学習の個性化」という概念で考えてきた。教科として社会、理科、国語の一部である「内容系教科」の授業や「ゆとりの時間」にこの概念をあててきた。

従って、私たちは新しい学習指導要領で打ち出されてきた「個性を生かす教育」という表現をこの二つの方向を含んでとらえていきたい。決して、個別化という方向だけではとらえないようにしたい。

次に、一般化・画一化＝特殊化・個性化のバランスについて考えておくと、明らかに教育は両者をバランスよく形成することにある。私たちも、国民として、地球人としての共通な基礎を無視するわけではない。学習指導要領の言葉で言えば、「基礎・基本」を大切にしたいのである。しかし同時に、一人ひとりの人間が自分の特性を発揮して生きることも無視したくないのである。人間に

は一人ひとり持ち味があり、良いところがあるのである。

私たちは、従来の教育が一般化・画一化の方向にのみ偏ったことを強く反省したい。今後は、もっと特殊化・個性化の方向が強められるべきである。私たちは、繰り返すことになるが、前者に「指導の個別化」という概念を、後者に「学習の個性化」という概念を与え、そのバランスを図ろうとしてきたのである。この点をもう一度確認しておきたい。

最後に、「個性を育てる授業」ということを考えておくと、現場ではなかなかイメージがわいてこないというのが現状ではないだろうか。すなわち、今までの授業でも一人ひとりを生かそうとしてきたし、一人ひとりの持ち味や良いところを生かしてきたではないか、と反論されそうである。しかし、私たちの立場は、実に、はっきりしているのである。

一つは、明らかに「自分はこの領域が得意である」あるいは「自分はこの分野なら人に負けない」といった領域や分野を育てることである。これを個性の実態概念と名付けておけば、そうした実態を育てることである。私たちは、そのためにいわゆるいくつかの課題別学習を用意し、実践してきたはずである。

他の一つは、明らかに「自分はこうしたやり方が得意である」あるいは「自分はこうした追求の仕方なら人に負けない」といったやり方や追求の仕方を育てることである。これを個性の機能概念と名付けておけば、そうした働きを育てることである。そのために私たちは、多様な学習材による豊かな学習環境を用意し、子どもたちをその中で自由に泳がせるようにしてきたはずである。

私たちの考える「個性を生かす授業」とは、かくも明確なものである。

新理事決まる(事務局より)

全国個性化教育研究連盟は、昨年2月に規約を改正し、憲章決定協定を総会から理事会に移すことに致しました。その結果、以下の方々に理事をお願いするのはこびになりました。ただし、東海個性化教育研究会および九州個性化教育研究会の役員・理事の方々は、同時に全国個性化教育研究連盟の理事になっていただくことになっております。よろしくお願い致します。

(元・2現在)

- 会長 染田屋殿相(前板橋区教育長)
 副会長 伊藤一郎(目黒区教育長)
 " 加藤幸次(上智大学教授)
 " 松崎二葉(前板橋区立金沢小学校長)
 理事 大井秀夫(北海道・広野小学校長)
 " 篠原弘(北海道・広陽小学校長)
 " 木村達(北海道・花園小学校長)
 " 工藤鉄雄(北海道・月寒東小学校長)
 " 石塚久稔(北海道・東洋小学校長)
 " 佐藤有(北海道教育大学助教授)
 " 坪谷京子(北海道教育大学講師)
 " 岩崎誠一(教育施設開発専務理事)
 " 小田さち子(青森・白菊学園小学校長)
 " 菅寿紀(山形・富沢小学校)
 " 下山尚(山形・赤倉小学校長)
 " 小野邦男(山形・寒河江小学校長)
 " 武藤巖男(福島・三春町教育長)
 " 野村裕子(福島・岩江小学校長)
 " 五十嵐麻(福島・三春町教育委指主)
 " 斎藤健一(福島・川俣小学校長)
 " 相馬四郎(茨城・松葉小学校長)
 " 長谷川純夫(千葉・北条小学校長)
 " 楠元尾(台東区浪草小学校長)
 " 久保田滋(目黒区教育研究所)
 " 行徳高德(目黒区中目黒小学校長)
 " 矢沢公雄(目黒区宮前小学校長)
 " 上山英昭(板橋区志村第二小学校長)
 " 笠原春雄(板橋区高島第六小学校長)
 " 新井久(前板橋区徳丸小学校長)
 " 平野朝久(東京学芸大学助教授)
 " 木戸芳海(日本視覚覚醒教材センター)
 " 浅沼茂(聖路加看護大学助教授)
 " 石坂和夫(国立教育研究所室長)
 " 高浦勝雄(国立教育研究所室長)
 " 雄長忠(神奈川・菅井小学校長)
 " 高橋稔(神奈川・下曾我小学校長)
 " 神代一(静岡県教育委員会)
 " 上原穰(富山・入善町教育委員会)
 " 上島賢一(富山・入善町上青小教頭)

- 理事 三田勝啓(愛知・二川南小学校長)
 " 松下晴彦(岡山女学院大学助教授)
 " 稲田成晴(岡山・暹橋小学校長)
 " 官島久夫(岡山・久世町教育長)
 " 鈴木正幸(神戸大学教授)
 " 長田勝男(沖縄・大迫小学校長)
 " 渡久地政吉(沖縄・教育研究所長)

——東海個性化教育研究会(6.3.4現在)——

- 理事 高木省三(会長 東浦町教育長)
 " 高橋園一(副会長 島田市教育長)
 " 安田重信(" 池田小学校長)
 " 服部久和(" 弥富北中学校長)
 " 竹内順夫(愛知・穂川小学校長)
 " 田口博(岐阜・前東白川村教育長)
 " 中山健彦(岐阜・東白川小学校長)
 " 岩岡隆義(岐阜・大垣北中学校長)
 " 村松務(静岡・初倉南小学校長)
 " 山田一男(静岡・初倉小学校長)
 " 柳田川稔(静岡・六合中学校長)
 " 原田一男(愛知・稲武町教育長)
 " 細田泰司(愛知・稲武小学校長)
 " 新美一成(愛知・片蘭小学校長)
 " 榊原秀道(愛知・卯ノ里小学校長)
 " 服部昭一(愛知・石浜西小学校長)
 " 安藤憲(愛知・森岡小学校教頭)
 " 成田幸夫(愛知・上野中学校)
 " 富山栄一(三重・松坂第一小学校長)
 " 魚住忠久(愛知教育大学教授)
 " 竹内通夫(金城学院大学教授)
 " 野村経吉(前常磐東小学校長)

——九州個性化教育研究会(元・2現在)——

- 理事 三原英雄(会長 春日市教育長)
 " 前崎敏雄(副会長 北筑後教育事務所)
 " 宮里朝景(" 沖縄・兼原小校長)
 " 荒木隆(" 福岡県教育委指主)
 " 松尾法夫(福岡・久原小学校長)
 " 横大路達也(福岡・須恵第一小学校長)
 " 田中普(福岡・教育事務所指主専)
 " 中原春樹(福岡・響国小学校長)
 " 八谷俊郎(佐賀・山内小学校長)
 " 大塚廣道(長崎・猪飼小学校長)
 " 内田末春(熊本・山北小学校長)
 " 佐藤実(大分・川原小学校長)
 " 中島増夫(鹿児島・前加世田小学校長)
 " 安田政登(沖縄・前具志川市教育長)
 " 柳田裕之(沖縄・中原小学校長)
 " 古謝哲雄(沖縄・高江州小学校長)
 " 小谷良治(沖縄・具志川市教育委指主)

(○印は常任理事)

アメリカ見聞記

全国個性化教育研究連盟では、昨年8月に、初めての海外教育事情視察を実施しました。15名の会員が参加した楽しいツアーでした。その一端をここに紹介します。

オシオ小学校との出会い

神奈川県 大磯小学校
河合 剛 英

今までテレビ等を通してしか知ることのできなかった、サンフランシスコ、ワシントン、ニューヨーク、シカゴといったアメリカの大都市をこの眼で見て歩くことが出来たのは大変幸せでした。初めて飛行機に乗ることについての不安が多少ありました。しかし、未知への憧れと、落ちるときはみんな一緒という開き直りとして、当初の不安もかき消されてしまいました。

小学校はウィスコンシン州のマックファーランド小学校、オシオ小学校、ハルムスタッド小学校の3校、そして中・高校を含めたミドルスクールはマックファーランドとチベワフォールズの2校を参観しました。

全体を通して言えることは、学習内容のレベルは日本の方が高いが、学校の施設・設備や学習環境はアメリカの方がはるかに優れているということです。それと同時に、1クラスの人数が25～30人という少数である上に、助手等も含めて多くの教師が指導に当たっているという事実です。

特に私の印象に残っているのは、オシオ小学校です。5才の幼稚園児から6年生まで含めて、全校で約400名の子供たちがいました。それに対して教師は17名、助手やインターンが20名程加わりますから、指導者は子供の総数の1割程にもなります。

広いフロアのスペースの中に、壁のない教室がありました。決して靈然と並んでいるという感じではありません。広いスペースの中心部には、図書類をはじめとしてコンピュータ等の教育機器がいつでも使えるように置いてあり、更には事務室等もありました。その周囲に、子供の肩ほどの高さの書架や校具によって仕切られた教室が、幾つも配置されているのです。

大勢の子供たちが学習しているのに、スペース内は非常に静かで、大きな声は聞こえてきません。

日本の小学校では活気のない学校ということになるのですが、小さな声でも学習が成立するという事を思い知らされました。

この小学校の特色は、異年齢の子供でクラスを構成し、その学力差に応じて指導をしているという点です。従って学年という段階をとらず、「ユニットA～D」を構成し、個人差に応じた指導をT・Tで行っていました。

同じ年齢の子供は同じ学年でなければならないという日本の観や教師の考え方とは異なり、かなり現実的・合理的な指導をしているという感じでした。私としても、この方が教える側にとっても学ぶ側にとっても良い方法ではないかと思えます。

いくつかの学校を参観して感じたことは、日本の学校のように堅苦しさがなく、自由な雰囲気であること、それにもかかわらずとても静かであること、更には子供の人間性を十分に尊重していること、先生方が穏やかな口調で話をしたり、説明したりしていることです。大いに参考にしなければならぬと思っています。

2週間があつという間に過ぎてしまいました。「百聞は一見にしかず」と言いますが、実に有意味な、そして楽しいツアーでした。

住んでみたい国「アメリカ」

千葉県 君津農林高校
小池 知 恵 子

旅行中に何だかんだと考えていても、結局帰国してみれば全てが思い出になってしまい「楽しい旅行だった」の一音に尽きる。

今回の旅行で一番の収穫と思われるのは、実際にアメリカの小中学生とふれあえたこと、また現場の先生と片言だけでも話ができたことである。見学をした小・中学校はオープンスクールの中でも優れた学校だったのであるが、オシオ小学校の女性教師が「私はこの学校の教育がベストだと思う」と語ったとき、その自慢の裏に莫大な努力と時間をかけて育成された教育環境を見たような気がした。

一方、児童・生徒はというと、機を折る時の真剣な眼、遊んでいる時の無邪気な笑顔など子供の屈託のない表情は万国共通のものなのかなと感じた。校庭で一緒に遊んだ彼ら、彼女らは外国人である私たちを積極的・好意的に受け入れてくれたと思う。ただ、英語で話しかけたために、それが方言の英語であっても、英語が話せると思ったの

か、数倍の速さで話し返され、更に質問までされたのには開口した。

この旅行で、これからの課題になることが一つあった。「語学力」である。異国の風景を見て写真を撮り、買い物をするくらいだったら言葉はいらないのかもしれない。しかし、今回のような旅行では、他者とコミュニケーションすることに、より深い意味があり、成果があるのだと思う。この好機を十分に活用できなかったことは誠に残念であった。自分自身の努力不足もさることながら、改めて日本の外国語教育を恨めしく思う次第である。

たった12日間しか滞在しなかったのに、西海岸にも東海岸にも行って、随分急ぎ足の旅行だったような気がする。サンフランシスコ、ワシントンDC、ニューヨーク、マディソン、オークレア、どの地をとっても思い出はあるが、やはり日光地よりもマディソンやオークレアの田舎の方が思い出深い。

ニューヨークで食べた寿司よりも、オークレアで食べた特大のステーキの方が印象深い。今度アメリカへ行く時は（再びそのような機会が訪れるかどうか定かではないが――）、もっともっと語学を鍛錬して一か月くらい田舎町にどっしりと腰を据えたいものである。

〈アメリカ視察旅行の日程と訪問校〉

- 8/17, 18
サンフランシスコ
- 8/19, 20
ワシントン
- 8/21, 22
ニューヨーク
- 8/23
シカゴ、マディソン
タバチニック教授（ウイスコンシン大）他
- 8/24
マックファーランド小学校他
- 8/25
オークレア・オシオ小学校
- 8/26
ヘルスタッド小学校、ミドルスクール
- 8/27
シカゴ（シアーズタワーなど）
- 8/28, 29
アンカレッジ経由で帰国

事務局長 高浦勝彦 だより

遠征発足より4年間、金沢小学校に事務局を置かせていただき、たいへんお世話になりました。今年度より、事務局長を国立教育研究所室長の高浦勝彦先生にお引受けいただくことになり、事務局の組織が下記のように変わりました。今後とも、よろしくお願いたします。

（事務局新組織）

（○印は各部代表）

- | | | |
|--------------------------|-----|---|
| 事務局
長

高浦
勝彦 | 庶務部 | ○佐久間茂和
加藤幸次
（東海・九州個教研連絡担当）
志茂暁子
望月桂二（広報担当） |
| | 会計部 | ○中沢米子
等々力美津子
望月桂二（庶務部より） |
| | 研究部 | ○浅沼茂
江連富夫
加藤勇
川島良代
小久保昌良
永井タケ子
佐久間茂和（庶務部より） |
| | 研修部 | ○河合剛英
舘岡茂樹
並木康成
成田幸夫（東海個教研）
池田信一（九州個教研） |
| | 編集部 | ○松田早苗
友山真知子
橋本悦子 |

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉

- 〒236 神奈川県横浜市金沢区泥亀2-3-1-203
事務局長 高浦勝彦
（自宅） ☎045-783-7497
（国立教育研究所） ☎03-714-0111
〒114 東京都北区田端1-10-2-201
広報担当 望月桂二
☎03-822-1366